

最近、将来性のあるスポーツとして、マリンスポーツが脚光を浴び、企業サイドによるマリナー開発が進んでいます。今回は、ヨットを通して見た海の実情を小林則子さんに伺ってみました。

—今回はテーマを絞ってお聞きしたいと思いますが、初めに最近のヨットの普及に対して、どのように感じていらっしゃるをお聞かせ下さい。

「私が始めた20年位前に比べたら確かに普及し、女性の愛好者も増えていますが、現在の日本のヨットの普及のあり方は、私が考えている本来のヨットというスポーツのあり方とはかなり違っています。具体的にはどのようなことでしょうか。

「ヨットは本来、皆で共有する海に船をとめて、自然に対して謙虚な気持ちで海に出て、自然とジカにふれ合って、自分自身をとり戻す自主的な活動なのだと思えます。それには、船の手入れや海を知る楽しみなども含まれてはいます。現在は行政上の関係から船を湾の自分の好きな場所に置いておくということができない場合が多い。ヨットを持つことが、だれかのお金儲けのために利用されたり行政の干渉が多すぎたりして、自由がないのです」

—そのことが、ヨットはお金がかかるという印象を受けるわけですね。

「言えないのです。お2人についてはレーサーとしてだけでなく、ヨット乗りとしても優れた人たちが聞いています」

—先ほどから伺っていますと、ヨットは生活の楽しさという点からすると、ヨットは生活の

「私も始めた頃は、競技のヨットもしていました。それはそれで楽しみ方の一つだと思います。しかしヨットは自然が相手ですから、艇に乗ることだけでなく、海と人のかかわりのすべてなのです。ヨットの楽しみはそれだけ広く深いということでしょうか」

—そうしますと大学のヨット部などは、本来のヨットの楽しみ方とは違っていますか。

「私は大学の体育会系のヨット部というものが、日本でのヨットの本来の楽しみ方を知る上で、ある意味で弊害をもたらしていると考え思っています。与えられた船を使って、たての関係で乗っているヨット部員は、海の上で最も大切な自主性を、まず放棄している場合が多いのです。私たちの船では、この手の人にはあらゆる意味で安心してまかせることができませんし、従って楽しくもない場合が多いですね。でも、レースをすれば必ずしも負けませんよ」

—ちょっと話が変わりますが、歴史的な海上ルートでヨットで航海されたのも、小林さんのヨットの楽しみ方でしょうか。

「これは、日本人の歴史的な交通手段に近い現



▲「ヨットをしている人の側からの意見も」と小林さん

代は帆船ということ、ヨットを使ってやりました。実際に歴史的な航路を通して日本を周航し、北朝鮮や中国へも行きました。ヨットの楽しみ方の一つですね」

小林則子さん

都立白鷗高校を卒業して三井物産に入社。その後AP通信東京支局、オーシャンライフ（集英社刊）を経て、1974年にオーシャンプレス社に参画。72年、第1回沖縄レースに「チタⅢ号」クルーとして参加し優勝。75年、「リブ号」で日本女性初のヨットでの単独太平洋横断レースに成功。78年から海賊ルートなど歴史航路シリーズを開始。89年には第18次琵琶湖ルートの予定。東京生まれ。海洋ジャーナリスト。

「外国では、ヨットの好きな人達が集まり、自発的に運営するためにクラブを作るわけですが、日本では先ほども言いましたように、行政と企業がマリナーを使用するように法律で追い込んでいるという形になっています。私は高い維持費を払わなくても、ヨットの持主がそれぞれに決めた場所を使って、生活の中の楽しみとしてヨットに乗ることが本来の姿だと思っています。ヨット自体は、中古の安いものから大型の豪華なものまでいろいろあります」

—女性の愛好者が増えてきているということ、昨年のソウル・オリンピックに2人の女性が初の女子種目に出場したと関係がありますか。

「ヨット競技として女性の種目を特別に作るということには私はあまり賛成ではありません。ヨットというものは自然に対して男、女、老人、子供などの区別なく楽しめるスポーツだと思っています。ひとたび湾を出た船に、自然は女性だから、初心者だからと言って避けて通ったり、手加減をしたということとは決してありません。また、同じヨットでも競技の世界は、一般的なヨットライフの問題と少しちがうと思っています。船や海についての知識や経験が充分でなくても、マークとマークの間を通過する技術が単に人より優れているからといって、必ずしもよいヨット乗りであるとは

「次に、マリナー・リゾート計画についてはどのようにお考えですか。例えば近い将来、東京湾内だけでもヨット人口の増加を見越して、10数ヶ所のマリナー建設が新聞などで報道されていますが、

「首都圏の人口からみて、数量的にはそれでも足りない位でしょう。問題はそれらのマリナーが何のためにつくられるかです。ヨットをお金儲けの対象とした発想なら、私は迷惑です、といたいですね。ヨットを置くだけで年間百万円もとるのが健全な社会といえるでしょうか」

—今のお話では、実際にヨットを楽しんでいる人ものではないようですね。

「これはマスコミの不勉強にも原因があります。行政や企業サイドの発表をそのまま記事にしているような所があると思います。私たちのように実際に楽しんでいるものの側の取材もした記事を書いてほしいと思います」

—これからのリゾート計画の参考意見としては是非行政側にも聞いてほしいですね。

リブ号から14年。海とヨットを身近なものとして楽しんでいらっしゃる小林さんは、終始一貫真摯な態度でヨットの現状を語ってくれました。

（2月14日取材・聞き手 吉田朱美）



Noble

美しいプロポーションのために
ノーブル シェイプアップ ファンデーション

- 綿力パードヤーン使用で、伸縮性、透気性、保湿度に優れ、気持ちよく、楽に着られます。
- 人間工学的なパターンづくりと、伸度バランスに優れたパワーネット編みで着くずれしません。
- どんな体型の方でもぴったりフィットの豊富なサイズ。

● セット内容：ブラジャー2点 / ウエストニッパー2点 / ガードル2点 / スリーインワン2点
ショーツ4点 / パンティストッキング4点 合計6種16点 定価200,000円

● ノーブルシェイプアップファンデーションは、お近くの美容室・エステティックサロンでお求め下さい。

総発売元 **滝川株式会社**
〒111 東京都台東区元浅草3-2-1 TEL: 03-643-2479 (ノーブル直通)